

**カンキツ幼木の潮風害による樹の枯れ込み程度と改植の目安**

2004年の台風により潮風害が発生した。カンキツの幼木では8割以上落葉した樹では、枝の枯れ込み程度により樹が枯死した。4月までの実際の改植本数と、3月時点での落葉率80%以上で枝の枯れ込み程度が段階3(前年枝まで枯れ込んでいる)以上の被害本数がほぼ一致したことから、枝の枯れ込み程度が樹の枯死による改植の目安として利用できる。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 榊英雄)

**研究のねらい**

宇城市三角町大口地区において、2004年9月6日の台風18号により海岸部の南から西向きの園が潮風害を受け、9月29日の台風21号で北西から北東の園が強風害を受けたため、定植されたカンキツ苗木に落葉の被害が発生し、枝の枯れ込みがみられた。結果樹での台風被害を解析した報告はあるが、植栽間もない苗木での調査報告がないことから、台風被害の実態を調査し苗木の枯れ込み程度による改植の目安を明らかにする。

**研究の成果**

1. 園地の向きでは、台風18号の潮風を受けた南から西向きの園で落葉率が高く、5割を越す樹で80%以上の落葉があり、全落葉被害樹も多かった。一方、東から南東向きの園では、80%以上落葉した樹は2割程度であった(図1)。
2. 台風21号の強風による台風18号後発生した新梢の枯死率は、強風を受けた西から南西向きの園で高く、それに伴い枝の枯れ込み程度も甚しい傾向にあった(図2、図3)。一方、強風を受けなかった南向きの園では、落葉率は高いが台風18号後発生した新梢が生存したため、枝の枯れ込み程度が軽かった。
3. 落葉率80%以上の被害樹の枝の枯れ込みは、3月になると11月時点より20%以上増加した(図4)。
4. 4月までの実際の改植本数と、3月時点での落葉率80%以上で枝の枯れ込み程度が段階3(表1)以上の被害本数がほぼ一致したことから、枝の枯れ込み程度が樹の枯死による改植の目安として利用できる(図5)。

**普及上の留意点**

1. 今回の成果は、宇城市三角町大口地区で2004年に台風18号・21号によるカンキツの2年生苗木への被害を調査した結果である。
2. 9月上・中旬までの台風被害では、落葉が発生しても新梢が発生し樹勢を回復できることから、台風被害後の散水と併せ、新梢発生後の緑化促進を図ることが大切である。

表1 枝の枯れ込み程度

段階	枝の枯れ込みの状態
1	枯れ枝がほとんどない
2	春枝の枯れ込みが数本みられる
3	春枝がほとんど枯死し、前年枝も数本枯死
4	主枝が1～2本枯死
5	主枝が3本ないし主幹が枯死

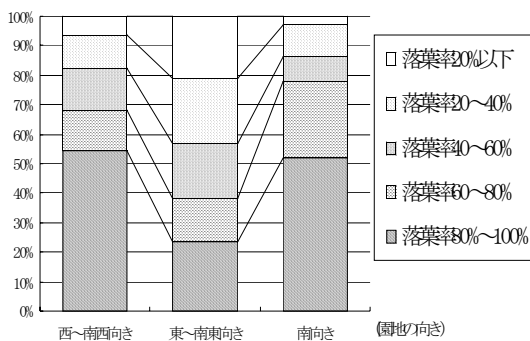


図1 園地の向きの違いによる落葉率  
注) 2004年11月5日・12日調査結果

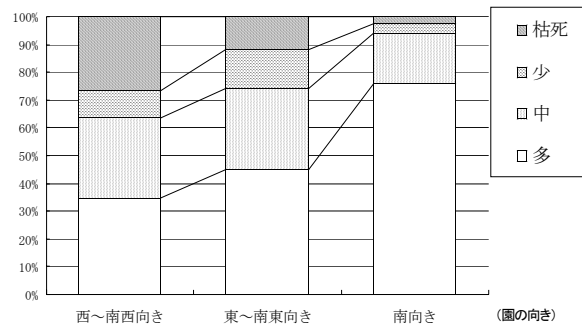


図2 園地の向きの違いによる発生した新梢の残存程度  
注) 2004年11月5日・12日の調査結果

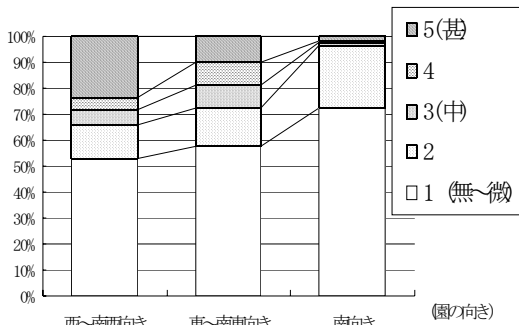


図3 園地の向きの違いによる枝の枯れ込み程度  
注) 2004年11月5日・12日の調査結果

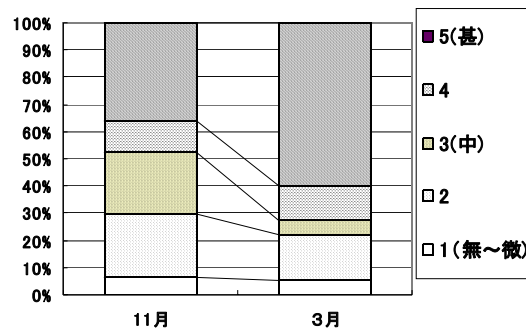


図4 時期別の枝の枯れ込み程度(肥のあかり)  
注) 2004年11月と2005年3月の調査結果

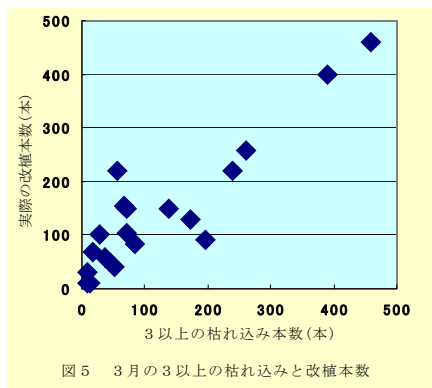


図5 3月の3以上の枯れ込みと改植本数